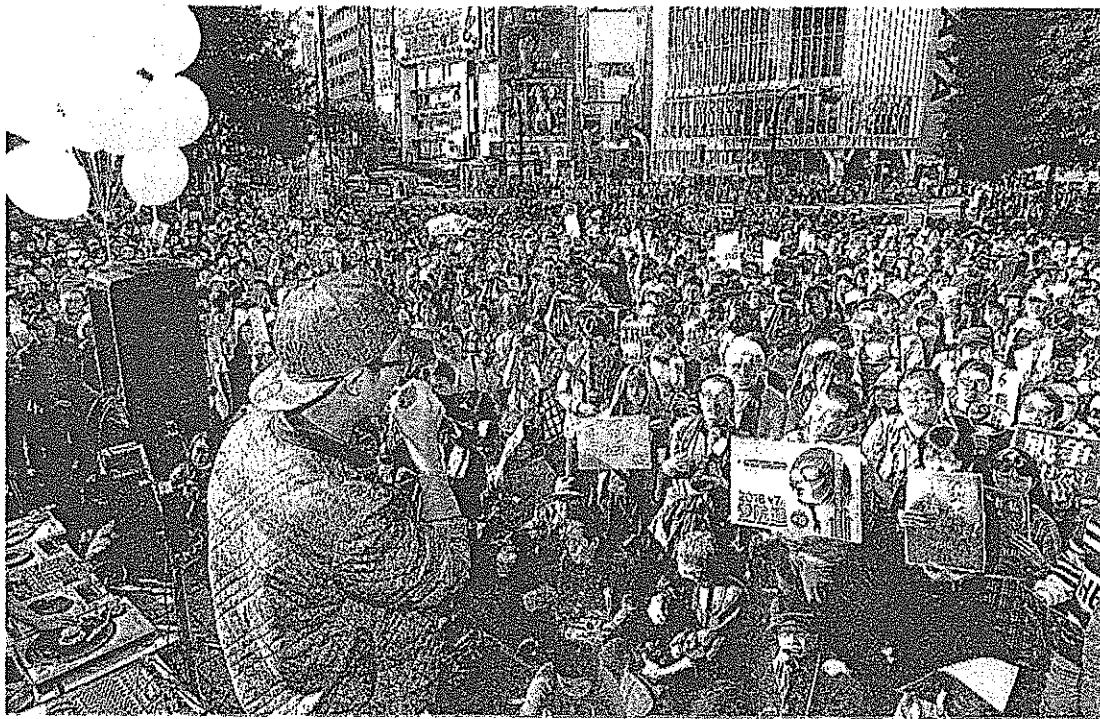


10/19 朝日



安保法成立1カ月

集団的自衛権の行使を容認する安全保障関連法制の成立から19日で1カ月になるのを前に、法制反対のうねりを巻き起こしてきた大学生らが18日、東京・渋谷で大規模な集会を開いた。

►31面=高校生も動く
主催した学生団体「S E A L D s

「行動 続けよう」

(シールズ)」のメンバーが「諦めることなく、民主主義のために行動し続けよう」と訴えると、ハチ公前広場を埋めた人から大きな歓声が上がった。野党5党の党首らも参加。ラップグループ「スチャダラパー」も登場した。
(市川美亜子、写真は関田航)

10/19 朝日

高校生「政治語りたい」

大学生のうねり受け街頭へ

9月19日未明に安保法関連法が成立して1ヵ月。反対を訴える街頭のうねりの中心となった大学生のに刺激を受けた下の世代とも、幅広がった。来年夏の参院選で、一票を投じる当事者となる高校生たちも、日常生活で学び、声を上げ続けている。▼1面参照

安保法成立1ヵ月

18日、大阪・ミナミで、つた「民主主義をとりもどせ! DEMO」で、市内の高校3年の男子生徒(17)が音楽に合わせてラップ調で「みんなの願い、選挙で実現」「選挙に行こうよ」と訴えた。

関西の高校生を中心約20人が集う「ティーンズソウル ウエスト」の人。関東の高校生が「ティーンズ ソウル」を結成し、たのに続き、8月に設立した。これまで学生団体「SEALDs KANSA」を尋ねるアンケートも企

画。「みんなが政治に関心を持つて、投票などの行動に移すきっかけをつくりたい」

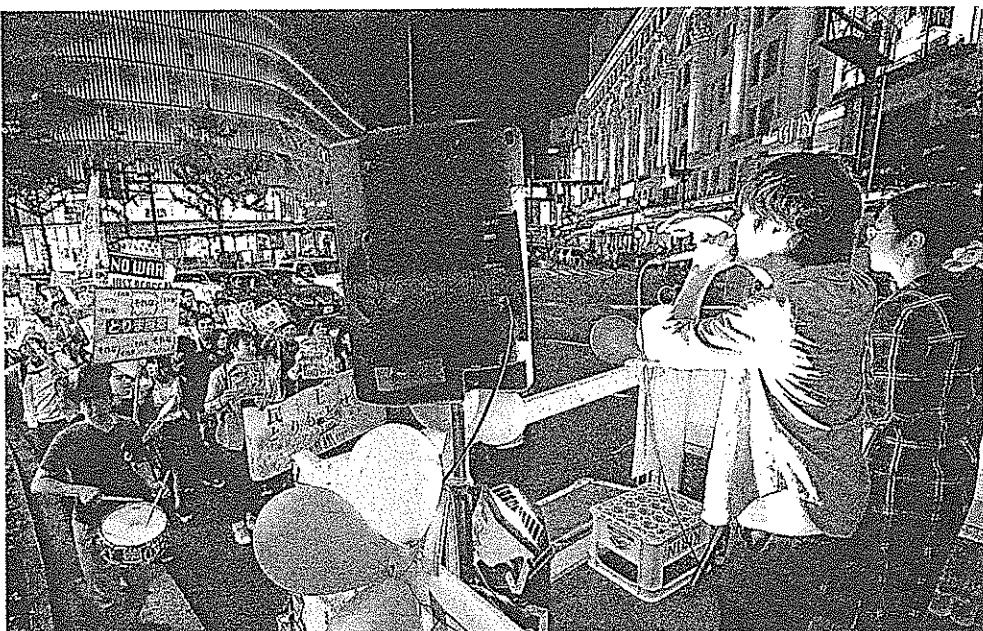
一方、9月に安保法に対する高校生グループ「SCHOOL OF DEMOCRACY IN KYOTO」(スクデモ京都)を立ち上げた京都市の高校2年の男子生徒(17)はい

「I」の「デモなどに参加してきた。「安保法が必要という意見も1回受け止めて対話したい」。法成立から1週間後のミーティングで思

いを語った。声を上げることは意味があると思うが、一方的な主張になりがちで自己満足で終わる可能性もある」と考えた。

対話の前提として安保法への理解を深めないと、

今月24日に大学教授を招いた学習会を開く。高校生に安保法や憲法について考えを尋ねるアンケートも企



奥田さん、中心にならう
奥田文画さうモ見守る側に
（沢木香織）

奥田さん、中心にならう

東京・渋谷で18日とあつた学生団体「SEALD

s」主催の集会。国会審議に参加する安保法に抗議の声を上げながら歩く人たち。先導車の上から高校生（右から2人目）も声を上げた。18日午後7時2分、大阪市中央区、内田光撮影

成立直後に本人と家族を「殺害する」との脅迫文が届き、大学で警察の警備がついたこともあった。「僕もが行くと、警備の人たちもいなきやいけない」と不参加も考えた。

だが近くから見守ることに。最後には短く壇上に立ち、「民主主義って何だ!」とホール。「やれる」とやつていきました」と訴えると、拍手が鳴り響いた。今は図書館に通う日々。大学院進学のためだけではない。「勉強しないと、自分の言葉がどんどんスッカラカンになっていくから」だ。今後については「それが自分が自分たちの日常の中で何ができるか。主体的に動いていくしかない」と語る。25日には、安保法制に反対する憲法学者らとシンポジウムを共催する。来年の参院選に向けて何ができるか、その後はどうするのか。思いを巡らせる。

（市川美里子、後藤透）